

令和 5 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 6 年 3 月 7 日
江別市立中央小学校

1 本年度の重点目標

共に学び共に高めあえる 豊かな力を育む学校づくり
～ 子どもの良さや可能性を伸ばす教育を実践しよう ～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	○ 主体的・対話的で深い学びの実現 ▶教職員自己評価 ⑤ 3. 1 4 ⑥ 3. 1 7 ⑦ 3. 0 3 ⑧ 3. 4 1 ▶保護者評価 ③ 3. 3 0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に「対話」を多く取り入れ、子どもたちが主体的に学ぶことのできる授業を構築する。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるため、一人一台端末など ICT の有効活用を図る。 ・支援員、学習サポート等外部人材を活用し、TT や習熟度別少人数指導など、きめ細やかな指導を徹底する。 	A	A
	○ 中学校区・幼保こを含めた教職員相互の信頼と協力による協働体制を基盤とした活力のある学校づくり ▶教職員自己評価 ⑨ 3. 1 4 ▶保護者評価 ① 3. 3 5 ② 3. 3 2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「報告、連絡、相談」を欠かさず、必要な情報を常に共有した協働体制を確立し、活力のある学校づくりを目指す。 ・中堅やベテランの教員が若手教員を育てる指導体制を構築する。 ・中学校区の教職員間で定めたスタンダードに基づいた指導を徹底する。 ・幼保ことの連携をこれまで以上に深め交流を図る。 	A	A
教育課程・学習指導	○ 基礎・基本の確実な習得と学びに向かう力の育成による「確かな学力」の向上 ▶教職員自己評価 ⑧ 3. 4 1 ⑩ 3. 3 8 ▶保護者評価 ③ 3. 3 0 ⑧ 3. 2 3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、NRT 学力テスト、チャレンジテスト等の分析を行うことにより、苦手分野を明確にし、「授業カルテ」を活用した授業改善に取り組む。 ・TT や少人数指導、タブレットを活用した学習などを工夫し、個別最適な学びを充実させ、学力の底上げを図る。 ・「家庭学習がんばり週間」等を通して保護者へ家庭学習の必要性を発信し、連携と協力を進める。 	A	A

生徒指導	<p>○ 共に認めあえる温かい人間関係の中での自制心と協調性を育む生徒指導</p> <p>▶教職員自己評価 ⑪ 3. 1 0 ⑫ 3. 2 4 ⑬ 3. 2 8</p> <p>▶保護者評価 ④ 3. 2 1 ⑥ 3. 3 4</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の悩みや困り感の把握に努め、児童への共感的な理解によって問題の早期発見・解決に努める。 ・T T、支援員、心の相談員等を活用し、複数の教員による児童理解と観察を進める。 ・外部関係機関（SSWやSC、子育て支援課等）との連携と協力を密にとり、児童の健全育成を図る。 	A	A
	<p>○ 安全に通学し、安心して学校生活を送るための安全対策</p> <p>▶教職員自己評価 ⑱ 3. 5 9 ⑲ 3. 2 4</p> <p>▶保護者評価 ⑥ 3. 3 4</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の行動等、具体的な例を提示し「自分の命は自分で守る」という心構えを育成する。 ・交通安全教室や避難訓練等を実践的に進める。また、情報モラル教育を充実させ、ネットトラブルに巻き込まれないよう指導を推進していく。 ・望ましい食習慣や健康への意識を高める健康教育の充実を図る。 	A	A
	<p>○ 全職員による日常的な児童観察と情報共有によるいじめ・不登校等への組織的な対応</p> <p>▶教職員自己評価 ⑯ 3. 3 1</p> <p>▶保護者評価 ④ 3. 2 1</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「友だちアンケート」や個人面談等により児童一人一人への共感的な理解を図り、問題の早期発見と解決に努める。 ・心の相談員やスクールカウンセラーの積極的な活用を促し、様々な角度から児童理解を図り、情報を共有する。 ・「不登校児童生徒に対する支援の手引き」に則り、未然防止・早期対応に努めるとともに、登校サポーターなどと連携し、「ほっとするーム」を有効に活用する。 	A	A
特別支援教育	<p>○ 一人一人のよさや可能性の伸長と教育的ニーズに応じた特別支援教育</p> <p>▶教職員自己評価 ⑪ 3. 1 0</p> <p>▶保護者評価 ⑦ 3. 2 2</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターが中心となって校内の情報収集に努め、情報を共有しながら支援体制を構築していく。 ・支援員や学習サポーターなど外部人材と情報を共有し、必要に応じて個別指導を行う。 ・担任と特別支援コーディネーターが窓口となって保護者の困り感を受容しつつ、関係機関と密な連携をとり最善の策を模索していく。 	A	A
教育環境	<p>○ 学び場として清潔でゆとりと潤いのある教育環境の整備</p> <p>▶教職員自己評価 ⑫ 3. 2 1</p> <p>▶保護者評価 ⑦ 3. 2 2</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の指導に有効な教材教具を精選し計画的に整備を進めていく。 ・1人1台端末、大型電子黒板の積極的な活用を図るとともに機器の管理を徹底する。 ・施設の老朽化に伴う修繕等が必要な場合は、速やかに教育委員会施設課に連絡し早期に改善を図る。 	A	A

保護者・地域連携	<p>○ CS・PTAをはじめ、保護者や地域との連携・協力を基盤とした地域とともにある学校づくり</p> <p>▶教職員自己評価 ⑳ 3. 1 0</p> <p>▶保護者評価 ① 3. 3 5 ② 3. 3 2</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だより、学年・学級通信、マチコミメール等を通して、必要な時に必要な情報の発信に努める。 ・正確な情報伝達や緊急連絡、日常の教育活動を知らせるために、全家庭メール連絡網の登録をお願いし、連絡体制を整える。 ・学校運営委員会において、学校経営方針や教育活動を丁寧にお伝えし、様々な立場からの意見や感想をいただき、学校経営の改善・充実を図る。 	A	A
小中一貫教育	<p>○ 中学校区で連携した学習規律の定着と9年間を見通した授業展開</p> <p>▶教職員自己評価 ⑨ 3. 1 4</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間で育てたい力を意識した教育課程を確実に実施する。 ・乗り入れ授業を積極的に行うなど、小中の教職員の連携を強化する。 ・中学校区の教職員で交流を図り、小中間で適切な引継ぎを行う。 	A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の仕事が増えていると感じるので、先生方の心のケアも大切である。 ・先生方で対応できない場合は、ぜひ外部の人材を使い、協働で学級経営も授業づくりも進めてほしい。 ・小中一貫教育がうまく回るといいが、あせらず長い目で取り組んでほしい。 ・自己評価と改善策の適切さについては、すべてAでよい。 					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない